ストレッチャー用プライバシー保護カバーの考案について

相模原市消防局（神奈川県）　大田　貴広
永作　慎一
宮本　真悟

1　はじめに

昨今わが国では、事件事故が起きるたびに報道機関の取材や撮影の他にＳＮＳや動画サイト等で撮影された一般の人々からの投稿画像等があふれており、個人のプライバシーの保護の面では多くの課題があります。

実際私たちが救急活動を行っている際も駅やデパート等で活動していますと、スマートフォンのカメラが向けられていることもあり、時代の流れに伴い、プライバシー保護の視点での活動も要求されます。

従って、救急活動に支障なく効率的にプライバシー保護が行え、更に傷病者に安心感を与えることができる対策がないかと考え、今回の消防機器の開発に着手しました。

2　現状

現場活動を複数隊で活動する事案では、プライバシー保護シールド等を使用し対応していますが、人員に不足が生じている場合などは十分な対応が行えず、上部の保護に関しては未対応となっております。（写真１参照）

また通常出場時は救急隊３名で傷病者対応しているため、マンパワー不足からプライバシー保護は後手となっているのが現状であります。対応としても、本人がタオル等で顔を隠すか関係者に依頼し目隠しをお願いする程度であり、活動隊対応のみで継続して観衆の目から妨げるのには限界があります。

3　考案品の概要及び機能等について

プライバシー保護が必要な状況の傷病者に使用し、顔面部を中心にカバーをして、公共の場において観衆から傷病者のプライバシーを保護するもの（写真２参照）で、以下の機能を施しました。

⑴　いずれの現場においても常に対応できるようにストレッチャーの頭部側に備え付け、コンパクトに収納できます。（写真３参照）

⑵　骨組みはベビーカーのフード用部品を基に加工し、ストレッチャーの幅に合わせフードの本来の機能である可変カバー機能を生かしました。

⑶　覆いは軽量化と耐久性及び汚損した際の交換を考慮して不織布としました。また、不織布のため耐水性を兼ねております。

⑷　安全面を考え支点となるステーはチューブにしました。また両端の径を大きくしたことにより本体をスライドさせて２カ所で固定でき、仰臥位時や座位時に対応できる構造としました。（写真４参照）

4　使用方法

プライバシー保護が必要と判断した場合、頭部側の隊員がストレッチャー上の傷病者に声かけを行った後に展開し、傷病者の顔面部を覆います。展開時は本体がストレッチャーマットに対しておおむね平行とし、かつ頭部側の隊員から傷病者を観察や気道確保ができる角度で設定します。（写真５参照）

設置位置は傷病者の体位に合わせて調整し、仰臥位時には足部側の位置で、座位時には頭部側の位置で展開します。その様に展開することにより常に顔面部を観衆の目から妨げることができます。（写真６参照）

5　その他の用途での活用

直射日光からの日よけや、雨天時には体幹部をストレッチャーカ

バーで覆うことによって傷病者の雨よけにも活用が見込まれます。
（写真７参照）

６　活用による効果

使用頻度としては現場から救急車までの雨よけとしての活用が多く、即座に使用できるので携行資器材等の搬送も同時に行え、現場活動が円滑に行えると考えています。また、デパート等でストレッチャー移動する際には積極的に活用し、プライバシー保護に効果があります。

７　まとめ

今回考案した資器材を活用することによって傷病者本人への安心感に加え、関係者も同様な安堵感を持つことができます。さらに、救急隊単隊での活動時に観衆から傷病者のプライバシーを簡便に守ることができ、対応する救急隊の労務負担軽減にも繋がることから、昨今の時代に対応した資器材であると考えます。

写真１　プライバシー保護シールド等を使用した活動

写真２　プライバシー保護カバー本体とステー部

写真３　ストレッチャー頭部側に収納した状態

写真４　スライドさせるチューブと２か所の固定位置を示したもの

写真５　プライバシー保護カバーを設定した状態

写真６　仰臥位の状態

座位の状態

写真７　ストレッチャーカバーを活用しての雨天時の対応